

女性に嫌われたら未来ない

FBH

知恵の経営

これからの企業の盛衰は、男性社員よりも女性社員の活躍度が決すると思われる。というのは、これからの時代は、男性が好むと好まざるとにかかわらず、一段と産業のソフト化・サービス化が進んでいくことが明らかだからだ。

こうした物財ではなく、ソフト・サービス財優位の時代になっていくと、その生産はもとより、消費の中核にもなる女性の役割が一層拡大していく。労働市場の視点からも、男性労働力人口が減少していく時代の中で、いまだに総じて低い、女性

のなお一層の社会参加なくして、「人財集約産業」でもあるソフト・サービス産業の発展はありえないからである。

つまり、これからの時代は、女性に嫌われた企業・商品には、未来はないといっても過言ではない。

こうした中、注目に値する企業が高知市にある。会社名は「ファーストコロポレーション」で、主な事業は不動産の賃貸借や管理業務である。社員数は正社員が23人、非正規社員が12人、計35人の中小企業だ。業種からもあるとはいえ、全社員の85%は女性社員で占められている。

同社がいかに女性を活用しているかは、業績がそれを物

語っている。

実際に業界資料を見ると、この10年間で業界の企業は10%減少している。半面、同社はきびしい環境をもとめせず、年々業績を向上させてきた。

同社の女性をトコトン活用する方策は随所にみられるが、ここでは、女性社員の中で多数を占め、最も支援が求められている「子育て世代の女性」に対する対策を2つの点に絞って述べることにする。

第1は、勤務形態に対する配慮である。

同社の育児期間中の勤務形態は、女性社員一人一人に対して実にハートフルである。例えば勤務日・勤務日数・勤務時間は

本人がいちばん良い方法を自由に選択できる。それどころか、自宅・実家や保育所の場所を考慮して勤務する支店すら選べるようにしている。

また、仕事している時間内でも、社内会議や残業の免除、病院や買い物、さらには子供のお迎えなどの時間を自由に取れるといった、充実した支援策となっている。

第2は、職場環境に対する配慮である。

同社の社内の奥まった部屋には、なんと「授乳専用室」や「昼寝奨励室」も設けている。子育てに疲れたお母さん社員に、つかの間とはいえ、休息の機会をつくっているのだ。

法政大学大学院政策創造研究科教授
アタックスグループ顧問

坂本光司



アタックスグループ 顧客企業1700社、スタッフ170人の会計事務所兼総合コンサルティング会社。「社長の最良の相談相手」をモットーに、東京、名古屋、大阪、静岡でサービスを展開している。

さらに言えば、親子出勤もOKであり、そのときには社長をはじめ全社員が交代で、社員の子供のお世話をしている。

こうした、一見非効率に見える経営を重視しながら好業績を継続できている。その理由は「世界でいちばん『超家族』カンパニーを目指そう」「業績よりは組織風土」「会社ではなく家族」「会社の主役は社長ではなく社員」といった経営目的を掲げながら、良いリーダーシップを果たしている、武埴泰臣社長の存在が大きい。